

〈特別インタビュー〉

# 加山雄三 歌と海と妻と

永遠の若大将からメッセージ

2大袋どじ ひし美ゆり子「裸のアンヌ隊員」  
+「ビキニの自伝」大場久美子

内田有紀

スクープ撮り!

# 有名500社年収ランキン

総力取材 賃金、出世、格差

日本のサラリーマン社会が激変中

高倉健と  
暴力団  
暴力団  
長嶋茂雄  
守備の秘密  
大反響  
第2弾  
ピント  
インタ

地図

MEGA地震予測  
最新版  
2015年の危険エリア

お年玉企画  
超お宝100種プレゼント

プレミアム&レア商品が目白押し



ご愛読  
感謝!



女性器露出アーティスト

オルセー美術館での仰天パフォーマンスで世界を驚かせた美女が独占告白

地図

2015年の危険エリア

超お宝100種プレゼント

プレミアム&レア商品が目白押し

お年玉企画

江戸のSEX

監修：奥女中の秘事

2015 JAN.  
1.16/23

440 yen  
特別定価

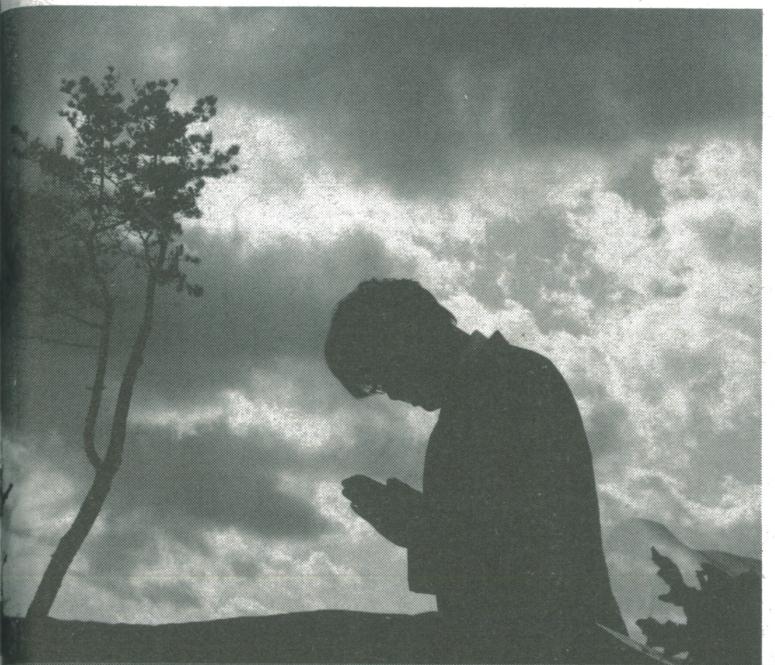
昭和の大河ビロイシ

大スターの死、隣国でのフェリー沈没事故、国内で起きた多くの自然災害——昨年は「死」を巡るニュースが世間を揺るがした年だった。そして新年。新しい年を迎えるということは、また一步「死」に近づいたということでもある。21年前、バイク事故で九死に一生を得てから、「生と死」について思索を巡らせてきたビートたけし氏が語る。

ポツカリと心に穴が空いたような気持ちが続いている。もしかしたら、オイラと同世代の「団塊の世代」

の男たちは、同じように思っているんじゃないだろうか。

それくらい、高倉健さん



あの日のことは、どうい  
うわけかバイクにまたがつ  
た後の記憶がまったくない。  
医者も助からないと思つた  
くらいで、顔だつて切り刻  
まれてズタズタになつてい  
た。今、オイラがここにい  
て、テレビでバカをやつた  
り映画を作つたりしている  
のは、髪の毛一筋くらいの  
幸運なんだよ。そして気が  
ついたら、生きていること  
にあまり執着がなくなつて  
いた。

だから、その後の人生は  
「おまけ」だと思っている。  
もちろん次の映画を撮つた  
り、仕事をやっていくため  
にも昔に比べりや節制して  
るよ。タバコも止めたし、  
ジジイになつてどうしても  
腹が出てくるんで、似合わ  
ないけどブルーでトレーニ  
ングなんかもしてる。

だけど、もし「お前は3  
日後に死ぬぞ」といわれて  
受け入れて、いつもと同じ  
ように仕事して、夜になれ  
ば普段通りにワイワイ酒を

飲んでいると思う。  
別に、達観しているフリ  
をして格好つけたいわけじ  
ゃない。もしかしたら、生  
きることに興味がなくなつ  
ただけかもしれないけど、  
事故の前より「普段の日々」  
を大事にしている感覚はあ  
る。

年齢のせいもあるだろう。  
オイラは今年の1月で68歳  
になる。そろそろ自分の限  
界が見えてきて、「できる  
こと」と「できないこと」  
がわかるようになってきた。  
そうすると、自然と腹が据  
わるようになってきたって  
気がする。

下町で生まれて、もとも  
と守るものなんて何もない  
オイラにしてみりやこの人  
生は上出来だ。芸人として  
も、映画監督としても、そ  
れなりに思いつきりやらせ  
てもらつたおかげで「はい、  
今日で終わり」といわれ  
りやそこで幕引きしても仕  
方ねエかと思ってる。

乱暴な言い方だけど、「死  
ぬのが怖い」ってのは「必

健さん、文太さんが往き、いよいよ

オイラたち団塊世代も考えなきゃな

# ビートたけし 「ちゃんと死ぬのは怖くない」



## 大事なのは 「自分の満足度」

高校から大学にかけては、毎日のように死ぬことに怯えながら生きていた。「そのまま死んでしまったらどうしよう」と思っていた。中学の時に野球部のチムメイトが交通事故で死んだ。すごく衝撃的なことだつた。「悲しくて」というより、人が死んでも世の中

死で生きてない」ってことだ。ちゃんと生きてりや、死ぬなんて怖くない。

それは別にオイラが世間的に成功したからといって、話じゃねエよ。この年になつたから分かることだけ、コツコツとマジメに働いて、家族を守り、子供を育てるという当たり前のことだけでも、十分に人生を生きた有名になろうが、いい映画を撮ろうが、満足感に大差はありやしない。大事なのは自分にできることを毎日こなしているかってことなんだ。

やつぱり、あの原付バイクの事故が大きいのかもしれない。あれからもう20年以上経つ。オイラの顔や頭には、今でもかなりの数のチタン合金が埋まってる。もうメスを入れられるなんてまつぱらなんで、そのままで「死」を恐れちゃいないんだ。

と菅原文太さんという2人の「昭和の大スター」の死は大きかった。どちらもいなくなることが想像できぬような存在だったからね。健さんが83歳で、文太さんが81歳か。ガキの頃に憧れていた人たちがバタバタと死んでいくのは辛いものがある。テレビの裏方やら、芸能関係の人やら世話になつた人たちもドンドンいなくなっていく。「ああ、オイラにもいつかそういう日が来る」って考える。

そんな話を同世代の人間としていると、やつぱり「死ぬのは怖い」って話になる。オイラもその場じやウンウン頷いて聞いているんだけど、本当のところはそれほど「死」を恐れちゃいないんだ。

一部地域で発売日  
が異なります

には何の変化もなく、世間では昨日と同じ今日が続いているという、その「あつけなさ」がこたえたんだ。

人の死なんて、誰にもコントロールできないただの運だ。ということは自分が死んで、今自分が死んでも、きっと何も残らないし、北野武という人間が生きたことだってすぐに忘れられてしまう。そうやってすぐに忘れられてしまうくらい、自分が人生が空っぽだといふことがただただ怖かった。

自分が「ちゃんと生きた」という感覚がないからこそ、死に恐怖を感じたんだと思う。

その感覚は、演芸場で売れない漫才をやっていた時

## 追悼の画一化はおかしくないか

2011年3・11(東

日本大震災)の時にも話しあけど、死とその悲しみつては個人的な問題だ。被

災地のインタビューでは、みんな最初に口をついて出たのは「妻が」「子供が」

も続いていた。「まだ死にたくない」って思ってた。オイラの映画の『キッズ・リターン』じゃねえけど、「まだ何も始まっちゃいねエよ」って感じたんだ。歳をとるってのは、当然死に近づいていくってことだけど、もう一つの考え方としては、そういう「やり残し」を毎日少しづつ減らしていく作業ともいえる。で、やれるだけやつたらハイ、サヨナラでいいじゃなく、いかつて思う。

「ちゃんと生きたかどうか」ってのは、「世間から認められたかどうか」じゃない。大事なのは「自分の中での満足度」だ。「ちょっと俺の人生も面白かったぞ」っていえればそれでいい。

「死」と対になる「生」だつて個人的なものだ。他人と比較したり、他人の評価で「ちゃんと生きているか」を決めるんじゃなく、自分自身が判断しなきやいけない。それが「生ききた」ということだと思うんだ。

なのに、ニッポン人はなぜか生き方も死の悼み方も社会全体で画一化しようとする。災害が起これば「これから〇周年」ってイベントを打つて、その時だけの「追悼」を押しつける。

この違和感は、去年流行ったアイス・バケツ・チャレンジの時も同じだった。



「記念日、だけが追悼じゃない」

水水をドバッとかぶる「ひょうきん懲悔室」みたいな絵面以上に、「氷水をかぶるか、さもなくばカネ(寄付)を払え」という同調圧力にゾッとしてしまう。そんなブームに便乗しなくてカネを出す時は出し、支援すべき時は支援する。「みんなで決められたフォーマットでやりましょう」なんておかしな話だ。

それと同じで、人にはそれぞれ死に対する態度がある。「年に一度はみんなで揃つて祈ろう」ってのは、押しつけがましいんだ。「いいな」と思ったのは、タイガー・ウッズの話だ。99年にプロゴルファーのペイン・スチュワートが飛行機事故で死んで、その後ゴルフでみんながスチュワートのトレードマークだったニッカボックを穿いた。だけどタイガー・ウッズはやらなかつた。確か、「オレはオレのやり方で彼を追悼する」というようなことをいつたんじやなかつたかな。そういう考え方がある。ツボン人にも必要なんじや

ないかって思うんだ。  
まア、いつ死んだってか  
まわないと思っているオイラだけど、正直にいえば「長い」ってのは怖い。あのバイク事故の時だって、意識が戻るまでまったく痛みは感じなかつた。飛行機の墜落事故なら、痛みなんてほとんど感じずに即死することができるんじやないかと想像することははあるけど、長くベッドで苦しむのはきついよな。健さんや文太さんはみたいにそういう辛さをひつそり隠して往ければ想だけど、それはなかなか難しいんでね。

いつもギャグに取られちゃうけど、「75歳以上の後期高齢者にヒロボン解禁」ってのは妙案だと思うんだけどな。その歳まで一生懸命生きれば、薬物解禁でボウソウと幸せな気分でいつでも死んでいいというさ。去年は安樂死・尊厳死が世界中で話題になつたけど、そうすりやすぐにこの問題は解決だぜつての! ジャン、ジャン!